

差が広がるのではと危惧している」とし、リハ以外での施設の努力や地域のニーズが評価されないことへの懸念を示した。

報酬以外については、4月から導入される新しい要介護認定一時判定ソフトの精度や審査会の運用状況などを検証する場が必要だとし、「国に対して議論の場を求めていく」考えであることも伝えた。

愛称、シンボルマーク公募の入賞者表彰
福祉用具専門相談員協会
会の愛称とシンボルを全国公募し、「ふくせん」に決定したことから全国福祉用具専門相談員協会(会長



リ山下一平ヤマトコーポレーション社長は21日、決定記念式典を行い、入賞者を表彰した。

愛称の最優秀賞は愛知県飯尾敏男さんの「ふくせん」、シンボルマークは新潟県の松岡光雄さんの「ハーフトに「F」を組み合わせたマーク」が受賞した。募集は2008年7月、1600作品の応募があった。山下会長は親しみやすい

名称とマークに決定したとして「協会の設立は、専門職の知識と技術サービスの質を向上するのが目的。会を軸にして介護のよりよい環境を提案したい」と多くの専門相談員の入会を呼びかけた。

全国実践者セミナー
来月14日から神戸で

ユニットケア研究会

特養・老健・医療施設ユニットケア研究会(武田和典代表)は3月14日から2日間、神戸市の神戸学院大学有瀬キャンパスで「第8回気づきを築くユニットケア全国実践者セミナー」を開催する。

初日の実践報告リレーで